



Sr.池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ボア ターラジ! : こんにちは!)

第18回目 11月13日(土)~11月19日(金)までのレポート

11月13日(土) 初めての市内バス乗車で Jarjim Botanico へ



クリチバ滞在前期に、観光バスと徒歩などで、25カ所の観光地はすべて回りました。今日の休日は、どのように過ごそうか考えた末、今まで体験していない市内バスに乗ることをメインに Jarjim Botanico(植物園)へ行ってみることにしました。

以前にも紹介しましたが、市内バスは、クリチバ市民の足として、市内各地を網羅し、かなりの本数が街中を走っています。日本の地下鉄並みです。乗ってみたかったのですが、バスの行き先などが明示されていないこともあり、これまで不安で乗らずにいました(お陰で、かなり歩きました)。

左上写真が、そのバスです。以前にも紹介しましたが、3両編成になっており、200名程度乗車できるそうです。バス停入り口で係員(左下写真)にバス料金を支払います。なんと、どこまで乗っても2.2リアル(約110円)です。日曜日は、1リアル(約50円)だそうです。これは、比較的遠隔地に居住している下層級の人たちに対する措置として、一律料金にしてあると聞きました。右写真がバス停内です。円筒形をしており、これがクリチバの特徴でもあります(マリンガには、とても貧弱なバス停しかありませんでしたが、クリチバでは、バスが市民の足なので、バス停も格好いいです)。バス内(左上写真)は、普通の光景ですが、さすが利用者が多く、座席は座るところがない状態で、このよ



うなバスが数分間隔で動いているので、いかに、市民がこのバスを多く利用しているか分かります。バスを降りた時に気づいたのですが、車いす用の昇降機がありました(右写真)。車いすの人でも利用できるようにそれぞれのバス停に設けられています。人に優しい町づくりが考えられているといえます(ただ、その割には、歩道が石畳ででこぼこなのが気になります)。



バスを降り、数分の所に、Jarjim Botanico(植物園)がありました(左下写真)。以前、紹介した時に、一日何も考えずゆったり過ごしたいと書きましたが、今日は、昼寝などしてゆったりと過ごしました。

ところで、ブラジルでは、今日から3連休です。月曜日が「共和国宣言」の日だそうです。1889年の11月15日に、ブラジル帝国君主制から共和党政権が確立したそうで、その日を記念した祝日だそうです。いわば、民主制が開始された記念すべき日だといえます。



11月14日(日) 南 Parana 日本語教育センター会長さんと面談

今日は、日曜日ですが、南 Parana 日本語教育センター会長の斉藤美代子先生と、お会いすることができました。この方は、現在、連邦大学 CELIN の上級クラスで教鞭をとっているかたわら、南パラナ日本語教育センターの会長を務め、南パラナにある日本語学校9校のまとめ役をしていらっしゃいます。日本の東京女学館出身で、ブラジルには28歳で自由移民として移り住みました（現在の年齢は聞きませんでした。初老といった感じです）。パラナ連邦大学の英文科、英言語学の修士課程を経て、現在言語学の研究も続けています。いろいろ翻訳の仕事にも携わっておられます。先日、私が、連邦大学で講義をした際に、南パラナ日本語教育センターの会長として、クリチバ周辺の日本語教室を担当している方に、私の特別講義の案内を出していただきました。講義当日は他の用事があり会うことができなかったのですが、是非、私に一度会いたいと依頼があり、本日会うことにしました。

お会いして、私の任務の目的や、これまでにブラジルで行ってきた内容について一通り話をした後、日本からブラジルに帰国してくる子たちへの支援について話をさせていただきました。これまでに、訪問した市の日本語学校で依頼してきたことですが、日本からブラジルへ帰国した子の中で、言葉の壁や生活習慣の違いによる壁により、ブラジルでの学校生活へスムーズに移行できない子のために、日本語教室でポルトガル語の指導をする件について話をしました。斉藤先生も、この件には、大変同調して頂きました。私も、日本語学校を訪問するたびに話をしてきたことですが、斉藤先生に話をすることで、この南パラナにある日本語学校すべてに声をかけてくださることになりました。私が、この斉藤先生にお会いしようと思ったのも、私が訪問できる日本語学校には限りがありますが、斉藤先生にお話しすることで、幅広く、情報を伝えてくださると思ったからです。

そのあと2点、お願いしました。1点目は、サンパウロ州で取り組んでいるカエルプロジェクトの紹介です。クリチバですぐに同様の取り組みができるとは思いませんが、このような取り組みがサンパウロで行われていることを知って頂き、少しでも、可能性を引き出したかったからです。2点目は、豊橋市が行っているインターネットラジオ（ラジオニッケイ）での、日本語講座の紹介です。日本語を覚えようと学んでいる人に少しでも宣伝し、日本語講座を活用してもらおうと思いました。2時間半ぐらいの会談でしたが、私にとっては、大変有効な会談となりました。



るところです。肉もとても美味しかったです。

午後からは、クリチバにいる日系の方達と「気の早い忘年会」を行いました。知り合いのお店を貸し切りにし、シユハスコでわいわいがやがや楽しい一時を過ごしました。左写真は、この店のシェフが、肉を串に刺しているところ。



11月16日(火) 私立 BOM・JESUS 校訪問



これまで、ブラジルでの学校訪問は、州立と市立の公立学校のみでした。私がお世話になっている州教育局と私立学校は、独立しているからです。私立と公立の格差が大きいと言われているブラジルで、是非、私立学校も訪問してみたいと思っていました。

今日訪問した BOM・JESUS 校も、系列校が 28 校もあるかなりの名門私学のようなようです。朝、昼、夜の 3 部制をとっており、生徒数は約 2580 名、学級数は 75 クラス、幼稚部から高校 3 年生まで、おおよそ 4～6 クラスずつあります。授業料は、年齢によって異なり、幼稚部の 600 レアル強から高校の約 800 レアルまでの範囲ですが、ブラジルの最低賃金が、600 レアルぐらいですので、この授業料がいかに高額か分かって思えます。また、先生方の給料も、公立学校の先生に比べ、1.5 倍から 2 倍程度、高校の先生では 3 倍程度支払われているようです。

校長先生に概略を説明して頂いた後、休憩中の先生方と話す機会をつくって頂きました。公立校との違いを尋ねたところ、次のような答えが返ってきました。①施設・設備が充実している。②運営の仕方、教育プランに対して、自分たちで意見を言える場があり、その意見が叶えられる。③細かいことだけど、学習に必要なプリントの印刷やコピーが容易にできる。②については、月に 1 回、すべての BOM・JESUS 校の先生が集まり、話し合いをしたり研修をしたりする場があり、そこでいろいろな意見を出し合うそうです（右写真はその説明をしてくれているところです）。



とても素晴らしいことだと思いました。日本の職員会議や教科部会のようなものです。③については、逆にびっくりしました。公立との違いでその意見が出てくるということは、公立では、それができないということになります。



その後、4 年生と 6 年生の授業の様子を見せてもらいました。いずれのクラスも、落ち着いて授業を受けている子ども達の姿がありました。ただ、教師が、特別興味ある授業をしていたわけではないので、裕福な家庭で育った子ども達の素質によるのだろうなと思ってしまいました。

この学校では、高校 1・2 年で 3 年間分の学習を終え、高校 3 年生では大学入試の勉強をするようにカリキュラムが組まれているそうです。そのため、1・2 年でリタイヤし、他の学校へ転校する生徒や留年する生徒が多いそうです（高校 1 年 8 クラス、2 年 6 クラス、3 年 3 クラス）。逆に、それだけに、進学率はものすごく、現役大学合格者は 93%、優秀といわれる州立や連邦大学への進学率も 60% 程だそうです。学歴社会の中心を走っている学校だと思いました。ここにも、公立学校と私立学校の大きな違いを感じました。

帰宅時には、子どもを迎えに来る高級車が駐車場に列を作っていました。

11月17日(水) 州立マリア・ガイ・グレンデル校訪問



今日は、車で、45分ぐらいかかる州立学校の訪問でした。州としてもお勧めの学校を紹介するために、結構遠距離になることが多いです。まず、正門壁が立派で、大きな字で学校名が記されていました（左上写真）。また、正門を入ってすぐある大きな壁画や真新しい校舎が、私たちを迎え入れてくれました。後から確認すると、改築し今年できたばかりだそうです。



ただ、私が本校の訪問で感心したのはそのような真新しさではなく、校長先生の学校経営に関する考え方でした。校長先生に生徒数・教員数・日課などの概略を聞いた後、この学校の特色は何ですか？と尋ねたところ、「この学校では、子ども達に

知識を教えるだけでなく、家族・福祉・人のあり方に目を向けたりするような人として大切なことも身につけさせたいと考えている」という言葉が返ってきました。これまで、多くのブラジルの学校を訪問してきましたが、このような言葉は初めて聞く言葉でした。ブラジルでは、2部制（3部制のところもある）をとり、限られた時間の中で生活するため、知識伝達に重点が置かれています。日本のように、「知・徳・体の調和のとれた生きる力を育てる教育」とは、大きく違うと感じてきましたし、そのことは、各所で日本の教育の説明をする時にも紹介してきました。しかし、この校長先生から上記のような言葉が出たことは私には大変うれしかったです。学校を巡回中に、校長先生が大きな壁画（右写真）を私に紹介してくれました。この壁画の詩には「科学や知識に目を向ける子、正しい道を選び



それを話せる子、他人に目を配れる社会が作れる子、新しい未来に希望をもてる子、平和と正義のために働ける子」と書いてあり、校長先生が好きな言葉だそうです。いわばこの学校の教育目標のようなものです。わたしは、ここでは、人間教育が行われていると思いました。具体的な実践として、毎朝、授業前に、5分間の全校朝会を行い、人としての行動に関する話や実践を行ったり、時間を守ることを大切にしたりしていると言っていました。学校を巡回する途中での校長先生の言葉の端々から、「子どもを育てたい」という意識が伝わってきました。ちなみに、この校長先生は、3部制になっているこの学校のすべての校長をしているようで、朝7時ぐらいから夜の11時ぐらいまで学校にいます。「大変ですね」と言うと、「この仕事が好きですから」と返ってきた言葉が印象的でした。

話は変わりますが、州の教育局では、貧しい家庭の子ども達（就学年齢に達していない子を対象）に牛乳を無償で配布する取り組みを行っています。今日訪問した学校で、その現場を見ました（左写真が配布される牛乳）。一人1日あたり1リットル配布されるそうです。貧富の差解消の一施策です。



11月18日(木) 7年生数学、授業視察



今日は、州立学校の授業をまるまる1時間見させて下さいとお願いした日です。これまでの訪問では、教室内で子ども達と会話するパターン、授業を5～10分黙って見るパターンだったので、今日はとても楽しみでした。左写真は今日の訪問校です。正面に落書きがあり、いかにもブラジルの学校でした。

授業は、7年生の数学の授業「場合の数」です。授業は、いきなり開始が7分遅れでした。これがブラジルの学校なのだろうなと思いました。今日の内容は、本単元の導入で、子ども達に場合の数を考える様々な場面を紹介し、興味関心を持たせる授業でした。まずは、子どもが選択しているマイスエデュケーション（課外授業）の組み合わせを、前期と後期の授業数から



考えたり、右写真の黒板に掲示してあるズボンとTシャツの絵を用意し着こなし方を考えさせたり、身の回りの生活場面や具体物を用意し、子ども達を数学の世界に引き入れていました。そういう点では、日本の授業と同じ形式の授業でした。この後も、自作の果物の切り絵（左写真）を用意し、ミックスジュース

を作る場面を考えさせるなど、次々に自作の教材を用意した後、教科書の問題で定着をはかるという構成になっていました。基本的には、1問1答型授業でしたが、定着の時間では、子ども達の出来具合を巡回しながら子どもの質問に答える場面も一部ありました。



教師の一生懸命さの割には、子ども達の授業への集中度は、個々バラバラで、反応の良い子もあれば、そうでない子もいました。24人中9人が教科書をもっていない、机の並びは整然としていない、ガムをかんでいる子複数、授業の後半ぐらいに遅刻してくる子2名、帽子をかぶっている子5名などから、クラスの状況を類推することができます。



授業者のエリーザ先生（左写真）は、大変熱心で、子どもの思考を考え、常に体験的な授業や生活から授業を組み立てることを考えていました。また、年6回、ごく少数の先生と集まり授業実践検討会も行っているそうです。ただ、そのような先生はごくわずかで、ブラジル教師にも格差があると思いました。

話の中で最も驚いたことは、教師が、授業のために用意するものはすべて教師の私費によるもので、例えば、学校で許されている子どもの配布プリントは、学期（4学期制）に一人あたり4枚のコピーだけだそうです。これでは、先生方は、良い授業など考えることなど到底できないかと、呆れるしかありませんでした。呆然とした一日でした。



11月19日(金) 州立ナルシム・メンテス校訪問

今日は、州立学校最後の訪問です。初めての男性の校長先生（左写真左）でした。ブラジル教育界では本当に男性が少ないです。教員の給料が安く、家族を養っていきることができないためです。学校という社会は、男性も女性も、年代的にも様々な人がいて子どもと関わる場所に、子どもにとっても良さがあると思いますが、これでは、あまりにも偏りすぎているように思います。

本校の特色を聞いたところ、明確な答えは返ってきませんでしたが、数年前まで、この地区にはギャングが多く、学校周りでも頻りにけんかや暴力行為が行われていたそうです。それを、警察や地域の人たちの協力を得ながら、平常な環境にしてきたことをまず話されました。そして、今では地域の方が、バザー・フェスティバル・ビンゴ大会・パーティなどを開催し、資金集めをし、そのお金で屋根付きのコートを作ったり学校に必要な品物を購入したりすることができるようになったことも話されました。ですから、地域の方と共に学校を立て直しつつあるといえます。

昨日の、コピー4枚の話が、あまりにも強烈だったので、今日は、自分から先生方が使用できる学校の消耗品について尋ねました。そうしたところ、この学校では、消耗品をしまっておく小部屋（本当に小さい）がありました（右上写真）。また、体育器具用の体育倉庫も小さいながら（消耗品の部屋よりさらに小さい）ありました（右下写真）。このような部屋の存在を、私がこれまでの訪問で気がつかなかっただけかと思い、同行してくれている州の教育事務所の方に、他の学校でも、このような部屋はあるか尋ねたところ、「ある学校とない学校がある。あっても、この学校ほど中身はそろっていない」という回答でした。この学校には、多少なりとも消耗品や器具があるとはいえ、やはりブラジルの学校では、学校になればいけないものが少なすぎると感じました。



本校の活動で、目を引いたのは、マイスエデュカッションという反対の時間帯に行う課外授業です。午前中には柔道・レクリエーション・数学、午後には絵とチェスの授業を行っています。これは、国の施策として、ブラジル教育の1日制移行に向けての取り組みの一つで、また、貧しい地区の子ども達への教育提供を目的としています。例えば、午前中にこの課外授業の柔道に参加し、午後は通常授業を受けます。そうすることで、子ども達は一日学校で生活し、非行へ走らなくて済みます。さらに、学校で昼食を食べることもできます（左下写真）。州でも、ビバ・エスコラという同様の取り組みを行っています。クリチバ州では、全体の約70%の学校がどちらかを実施しているそうです。